
パズル

藤原杏樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パズル

【Nコード】
N6445F

【作者名】
藤原杏樹

【あらすじ】
これは、人生のパズルをもとに繰り広げられる短編集です。恋愛、友情、人生における楽しみや苦しみを描いた物語り。

プロローグ（前書き）

この物語は、短編集です。
第一話から物語が始まります。

プロローグ

人生において、人はいくつもの人と出会う。

そして、たった一つのピースを探し生きる

全てのピースがはまり、パズルが完成する。

そうすると、人は気付く。

小指に巻かれた、一本の糸。

その糸を辿り、ある人に辿り着く

同じ糸が結ばれた、運命の人

真っ赤な赤い糸を二人で持ち

その運命に喜びを感じる

それは、儚くも夢の時

それは、醜い悪夢の時

プロローグ（後書き）

これから、よろしく願います。
ぜひ、感想も願います。

桜散る頃に〜第1話〜

俺たちはいつも一緒にいた

俺たちの絆は絶対切れないと思ってた

桜散る頃に

君にまた会えたなら

「また比奈に会えてよかった」

「うん。あたしも。翔ちゃんに会えてよかったよ」

「本当は隼人とも会いたかったけどな」

「……そーだね」

「あ、ごめん」

「ううん。隼人、元気にしてるかな？」

「ああ、きつと元気でやってるさ」

あれから19年が経ち、あと少しで20年が経とうとしている。長かったようで短かった。隼人、俺達はお前を絶対に忘れないから。ずっと思ってるから。お前も忘れんなよ。俺達は、お前も、神様も、誰も切ることの出来ない太くて強い絆で結ばれてるんだ。それは、ずっとこれからも変わらない。俺は、あの日みたいな過ちはもう絶

対犯さないから。だから、またいつか、一緒に桜を見にあの丘へ行こう。きっと、その桜吹雪は俺達を祝福してくれるはずだから。

「じゃあ、そろそろ」

「おう。元気だな」

「うん。翔ちゃんもね。バイバイ」

「ああ、じゃあな。また会おう」

もしかしたら一生会うこともないかもしれない比奈と握手を交わし、別れを告げた。あの時の記憶は、あそこにいたみんなの心に深く刻まれた。だからこそ、もう会う勇氣は俺には無かった。ただ、今日会うことが出来たから十分だと思った。比奈に会って、お前のことを話すことが一番いいと思ったんだ。俺のためにも、お前のためにも、比奈のためにも。俺が、今まで助けてもらってた分、俺が今度は隼人や比奈を救ってやらなくちゃいけないから。

「俺も行くか」

加宮翔太^{かみやしょうた}は、決心が付いたように19年前のあの日のことを思い出しながら、ゆっくりと歩き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6445f/>

パズル

2011年1月19日23時54分発行